

IAEA グロッシー事務局長によるビデオメッセージ(仮訳)

令和3年4月13日

- 日本は、2011年の事故以来、福島第一原発に貯蔵された処理水の処分方法を公表した。私(グロッシー)は、この重要な公表を歓迎する。
- これは、福島第一の廃止措置に向けて重要なステップである。日本の要請に際して、IAEAは、(日本の)計画の安全性と透明性の実行をレビューする技術的支援を提供する準備ができています。
- 我々は、水の処分前、処分中、処分後において、日本と緊密にやり取りをするつもりである。例えば、我々は日本への安全レビューミッション派遣や、そこでの環境モニタリングを行うつもりである。
- 我々の協力は——日本や海外(beyond)において——、水の処分が環境や人体健康に悪影響を及ぼさないという信頼の構築(build confidence)を助けることになるであろう。日本が選択した方法は、大量の水を扱うケースは、ユニークであり、複雑でもあるが、技術的に実現可能であり、また国際慣行にも沿っている。
- 管理された海洋放出は、世界の原子力発電所の運用国で、日常的に行われているものである。厳格な安全・環境基準に則して、定常的に管理されているものである。
- 私は、この決定を実行するにあたり、日本がすべての関係者(all parties)と、オープンで透明性ある形で情報交換をする(interact with)であろうと信頼している。IAEAは、技術的・客観的・不偏的な権限(mandate)に沿ったあらゆる支援を行うつもりである。

令和3年4月13日

IAEA は福島の水の処分を支援する準備がある:グロッシー事務局長

- グロッシー事務局長は、福島第一原発に保管されている大量の処理水の処分方法を決定したとの発表を歓迎し、IAEA は、計画の安全で透明性高い実施に関し技術的な支援の用意があると述べた。
- 日本が選択した処分方法は技術的に実施可能であり、国際慣行に沿っているとグロッシー事務局長は述べた。管理された海洋放出は、世界中の稼働中の原発において、安全性と環境影響評価に基づいた、特定の規制認可により日常的に実施されている。
- 「日本政府による本日の決定は、福島第一原発の廃炉作業全体の進捗に資するマイルストーンである」、「持続可能な廃炉活動にとって、すべてのステークホルダーの関与を得つつ、安全で透明性高い処理水の処分など、水の管理は重要である」とグロッシーは述べた。また、「貯蔵水に係る日本政府の決定は、世界中の慣行に沿っている。福島第一原発の水が大量であり、ユニークかつ複雑なケースであつてもだ」と述べた。
- 日本政府は、水の処分を注意深く行い、放射線リスクを最小化し、国際的な安全基準を守ると述べた。福島第一原発の原子炉建屋に地下水が流入し続け、汚染水が発生している。汚染水からは多核種除去設備(ALPS)として知られるプロセスにより、トリチウム以外の核種が除かれ、サイト内で保管されている。約125万立米が1,000程度のタンクに保管されており、すべてのタンクが2022年夏頃に満水になると予想されている。
- 「原子力安全は国の責務。日本政府に、この水の課題について決定を行う責務がある」、「日本は包括的な環境影響分析を実施している。私は、実施に向かう過程で、日本政府がすべての関係者との透明で開かれたやりとりを続けていくと確信している。」とグロッシー事務局長は述べた。

- 日本は IAEA に水の処分に係る協力を要請した。たとえば、国際的な専門家のミッションによる国の計画や活動のレビューや、海洋環境などの放射線モニタリング支援である。「我々は、処分の前・中・後において日本と緊密にやりとりをしていく」と、昨年福島第一原発を訪問したグロッシー事務局長は述べた。「IAEA には技術的知見があり、安全な実施に係る信頼構築を支援することができる。」
- IAEA は日本と、事故後の 10 年、放射線モニタリング、環境回復、廃棄物管理や廃炉の分野において、密に協力してきた。グロッシー事務局長が 2019 年に着任後、事務局長は福島の水に関し、日本の高官に対して支援を提案してきた。2020 年 2 月には安倍前首相に会い、先月(2021 年 3 月)には梶山経産大臣とバーチャル会談を実施した。
- IAEA の安全レビューなどの技術支援は、世界中で電離放射線の悪影響から人と環境を防護するための参照文書である IAEA 安全基準にもとづいている。